

令和6年度鶴見区区政会議 第1回くらし安全部会 会議要旨

1 日時 令和6年7月2日（火） 午後7時00分から午後9時05分

2 場所 鶴見区役所 3階 302会議室

3 出席者

（委員）

小倉部会長、黒澤副部会長、齊喜委員、坂本委員、松本委員、山田委員

（鶴見区役所）

塚本総務課長、木村政策推進担当課長、中村市民協働課長、上山総務課長代理、

仲田総務課政策推進担当課長代理、秋本市民協働課長代理、

後藤市民協働課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課鶴見区教育担当課長代理、

笹田総務課担当係長、保原総務課担当係長、今井総務課担当係長、徳市民協働課担当係長、

大川市民協働課担当係長、前田市民協働課担当係長、高岡市民協働課担当係長

4 議題

（1） 令和6年度鶴見区区政会議の進め方について

（2） 令和5年度鶴見区運営方針自己評価について

（3） その他

5 議事要旨

（1） 令和6年度鶴見区区政会議の進め方について

事務局から、「令和6年度鶴見区区政会議スケジュール(案)」(資料1)に関する説明を行い、案のとおり了承された。

（2） 令和5年度鶴見区運営方針自己評価について

事務局から、「令和5年度鶴見区運営方針 独自様式」(資料2)に関する説明を行い、委員からの意見等及び事務局からの回答の概要は次のとおり。

- ・ 多くの成果指標では区民アンケート結果を用いているが、区民アンケート結果によって現状などを把握することについては、甚だ疑問を感じざるを得ない。
- ⇒ 区民アンケート以外にも、イベント参加者向けのアンケートを取るなどし、取組の成果を適切に測定できるよう努めていますが、代替案があればご教示いただければと思います。
- ・ 区民アンケートや参加者向けのアンケートの回答者については、そもそも肯定的な回答をする方が多い傾向にあることから、当該結果が実態を反映しているかどうか非常に疑問である。当該結果のみに依拠せず、さまざまな指標や角度から分析すべきである。
- ・ 地域にてイベントの企画・運営を行う立場としては、アンケートを行うことによって改善策等を把

握することができることから、アンケートは決して無用の長物ではないと思われる。

- ・ 防災訓練に参加した方へのアンケート結果では、非常に多くの方から肯定的な評価をいただいているが、成果指標(中期)に設定している区民アンケート結果では防災に係る区民意識は決して高くない。そのため、防災に関与していない、一般の区民に対するアプローチが必要ではないか。
- ・ アンケート結果で否定的な意見をされた方など、防災に無関心な方への底上げが必要であり、当該意見等を活用したうえで、改善策を検討することが重要である。
- ⇒ 一般の区民に対するアプローチとして、毎年1回、広報紙にて防災に係る特集号を掲載するとともに、「安全・安心フェスタ」では、防災に関して興味や関心が高くない方や子育て世代に会場してもらえるような工夫を凝らしています。また、地域で行う防災訓練についても、無関心な方にどうすれば参加いただけるのか、地域の皆様と一緒に考えていきたいと思います。
- ・ 区民アンケートの防災に関する設問では、「いざという時に備えているもの」について、選択肢としていくつかの対策が羅列されているが、本来的には備蓄や耐震対策など、全ての対策をしない限りは減災につながらない。
- ⇒ 広報紙では、2カ月に1回、防災コーナーといった記事を掲載しており、それも活用しながら備蓄等の周知活動に努めています。
- ・ 鶴見区役所として全区民に対応できる程度の備蓄を用意しているのか。
- ⇒ 指定避難所に設定されている区内小中学校等では、一定の食料や水を備蓄していますが、区民全体の備蓄量を下回っているため、自助として3日程度の備蓄を各家庭にて備えていただくよう啓発を進めています。
- ・ 災害時における要支援者を把握されているのか。
- ⇒ 一定の要件を満たす避難行動要支援者などの要配慮者については、個別避難計画の対象者として名簿を策定中であり、現在5地域にて作業を進めており、残る地域についても、順次進めていきます。
- ・ 毎年、自転車マナーアップキャンペーンなどを実施されているが、自転車マナーやルールを遵守する方が増えているといった実感はあるのか。
- ⇒ 広報紙での啓発のほか、警察や民間企業等と連携したうえで、高校生向けの研修も実施しています。引き続き、警察と連携したうえで、そういった取組を増やしていきたいと考えています。
- ・ 成果指標(単年度)では、「交通事故死傷者数における自転車事故の割合」を設定されているが、「実数」ではなく「割合」だけを掲載することには疑問が残る。
- ⇒ 大阪市内で自転車安全利用や交通安全にかかる啓発等を所管している市民局に確認したところ、「実数」を目標に設定することは困難との回答がありましたが、今後は「当年度の評価結果」欄に実数をお示ししたうえで、総合的な評価をしていきます。
- ・ 交通安全対策に係る取組については、本来的には警察が主体となって実施すべきものである。
- ⇒ ご指摘のとおり、当該取組については、警察主導であり、区役所としてはそれに協力する立場で取組を進めています。
- ・ 若い世代に対してはSNSによる区政情報の発信が有用と思われるが、大阪市LINE公式アカウントが各区からも情報発信できるようになったとのことだが、今後、どのような運用を考えている

のか。

- ⇒ 大阪市LINE公式アカウントのセグメント配信については、市民等がLINEにて「大阪市」を友だち追加したうえで、情報を希望するカテゴリーなどを選択することで、欲しい情報を受け取ることができるものです。そのため、まずは大阪市LINE公式アカウントの認知度を高められるような取組を進めていきたいと考えています。
- ・ 区民アンケートや区政会議などでの意見については、具体的にどのように対応しているのか。
- ⇒ アンケートなど無記名でのご意見については、関係部署と連携しながら、事業を展開する上での参考とさせていただきます。
- ・ 区民アンケートや区政会議などでの意見が運営方針に反映された際には、当該反映箇所が分かるような体裁にしてはどうか。
- ⇒ 広聴事業によって得られたご意見に対して、区役所としてどのように対応し、また改善が図られたのかを効果的に情報発信していきたいと考えています。
- ・ 区政会議(全体会)では、区政会議委員の意見に対する区役所の対応や考え方等を資料としてまとめられているが、当該意見がどのように区政に反映されているのかが分かりにくい。
- ・ SDGsに係る取組について、区役所としては成果指標(中期)に設定している「日頃から意識してSDGsに取り組んでいる区民」を増やしたいということか。
- ⇒ 高齢者のSDGsに関する認知度は若年層に比べて低いものの、実際にSDGsを実践されている方は多いと思われます。そのため、広報紙などを活用して、電気のスイッチをこまめに消すといった日頃の行動がSDGsに繋がっていることを周知していきたいと考えています。そのうえで、身近な行動がSDGsに繋がっていることを理解・意識していただくことによって、より多くの方がSDGsに繋がる行動に取り組んでいただけるようになればと考えています。
- ・ SDGsの達成に向けて、具体的にどういった取組をすればよいのかが判然としない。
- ⇒ 令和5年度に初めて実施した「SDGsポスターコンクール」では、参加者である小学生やその保護者などにとってSDGsのテーマやゴールを考えてもらうきっかけになりましたが、多くの方がSDGsに繋がる取組を可能な範囲で実践いただけるような周知活動を継続して実施していきたいと考えています。
- ・ SDGsといった大きな枠組みでは、区役所で実施できる取組は限られており、国の政策に左右されるのか。
- ⇒ 国が主導してSDGsに関する政策を推進しているところですが、一方で民間企業もSDGsに対して関心が高いことから、区役所だけでは対応できない領域などには当該企業と連携しながら、SDGsの取組を進めていきたいと考えています。
- ・ 区役所が作成したSDGsに係る啓発物品について、文字が小さく判読できないことから、次回作成時には文字を大きくするなど、見やすくなるような工夫をしていただきたい。
- ⇒ 貴重なご意見ありがとうございます。
- ・ 区民の方が花や緑に触れる機会を創出する取組を行っているが、ハナミズキ、チューリップ、ツバキ、ニチニチソウといった区の花を意図的に増やそうとしているのか。
- ⇒ 令和4年度の花博 30 周年記念事業では、ハナミズキの植樹を行ったり、種から育てる地域の花づくり事業では、地域の方がニチニチソウを種から育て、関係地域に配布しています。ただし、

区の花としての認知度は高くないことから、今後は周知活動に努めていきます。

- ・ 鶴見区は緑が多く、花博記念公園鶴見緑地もあるため、是非とも区民の方には花や緑を実感できるようになればよいと思う。

(3) その他

事務局から、「鶴見区での災害等による大規模断水時の生活用水(中水)確保のための地下水の利用について」(机上配付資料)に関する説明を行った。

6 会議資料

(1) 次第

(2) 令和6年度鶴見区区政会議スケジュール(案)(資料1)

(3) 令和5年度鶴見区運営方針 独自様式(資料2)

(4) 令和5年度鶴見区運営方針 共通様式(参考)

(5) 鶴見区での災害等による大規模断水時の生活用水(中水)確保のための地下水の利用について(机上配付資料)